



天寿酒造株式会社

〒015-0411
秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下117
TEL 0184-55-3165 FAX 0184-55-3167
http://www.tenju.co.jp
第61号 2010年1月号



若松勉氏野球殿堂入り祝賀会・天寿で鏡開き

新年おめでとございませう。十二月中に出張から帰ったら、空港で私の車が見つからないピツクリする様な大雪もありましたが、秋田は気候的には比較のおだやかな正月を迎えました。厳しい贈答市場に喘いだ師走でしたが、08に世界的な三つのコンテストで受賞した純米吟醸「鳥海山」や名門酒会の生酒部門は一

教学相長ず
代表取締役社長 大井建史

一般の部 MVP。ひやおろし部門は三年連続東の横綱になった「米から育てた純米酒」等が全体を引っ張ってくれ、又、ヤクルト球団若松元監督の野球殿堂入りのパーティーで天寿純米酒をお使い頂いたり、婦人画報新年号で取材記事も載せて頂いたり、大変有り難い事も続きました。お世話になりました皆様、心から感謝を申し上げます。
人生五十年が過ぎ、天寿酒造に入社して四半世紀・社長として10年が過ぎました。新創業を標榜し、改革・革新に努めてまいりましたが、歴史的に築かれて来た財産の有難さと儚さにも気付きました。当たり前と言う事など無いのですね。『当たり前』を覚える人・教える人・知らない振りをする人・忘れる人。この「人」を「自分」と置き換えても又真なりとも思いますが、天命を知るには程遠い状態であります。
先代五代目が70代後半の頃、小学生的の私に「建史、人は運・鈍・根だ。鈍い位に実直に、性根を据えて物事に当たれば運は自ずと付いてくる。」と何度も説かれた記憶があります。目を閉じ耳を塞ぐ事ではありません。基本に忠実であれと言う事だと思えます。統制



婦人画報新年号

の為販売価格・使用できる米の量が決まっていた売る努力など必要ない時代に、闇米を買ってまで精米歩合を少しでも上げる品質向上に努力した人の言葉です。
昨年11月の株主総会では昭和六年生まれの父・六代目永吉が代表取締役会長を退任し取締役相談役に就任致しました。これまでのご厚情に感謝いたしますと共に、後を継ぎます私共に代わらぬご厚誼を賜ります様お願い申し上げます。

平成22年
2月13日(土)

酒蔵開放



場所 天寿酒造株式会社
時間 10:00 ~ 16:00
参加無料 受付最終15:00

朝しぼりの超限定酒販売

蔵開放の当日、朝から搾りながらピン詰めする超フレッシュな特別純米酒を販売します。売り切れ御免の大人気酒です！ジューシーな新酒を是非お買い求め下さい。

蔵元訪問者限定酒

酒蔵開放当日のみの「しぼりたて限定酒」と「甘酒」を販売致します。

酒蔵見学

新酒が薫る酒蔵を、蔵人が酒造りの行程を巡りながら詳しくご案内致します。

純米新酒雪室封印

しぼりたての純米新酒を雪室に封印し5月まで氷温で貯蔵します。どんなお酒に仕上がっているか5月の封印解除をお楽しみに。

郷土芸能「猿倉人形」上演

第一部 11:00 ~ 12:00
第二部 13:30 ~ 14:30
毎年満員の人気公演。今年も「猿倉人形芝居」を2回上演します。(無料)

天寿のお雛さま

築180余年の本宅座敷で、歴史あるお雛さまを眺めながら、甘酒はいかがでしょうか。

おしるこ無料サービス

11:00、12:30、14:30に、もちつき大会を開催します。誰でも参加出来ます。ついたおもちはおしるこにして、無料サービス致します。

天寿名物アイガモ鍋

夏の間、無農薬田で活躍したアイガモが酒蔵開放でも活躍します。今や名物となりました天寿のカモ鍋。寒い冬、アツアツのカモ鍋と日本酒が最高です。先着500杯(一杯200円)

無料列車運行

冬道の不安がありません。お酒もゆっくり楽しめます。是非ご利用下さい。

鳥海山麓線「おばこ号」

(下記列車に限りフリー乗車できます。)

本荘発	矢島発
10:50	14:50
11:52	15:50

先着10名様限定 14:30 ~

酒造りを見ているだけじゃ物足りない方におすすめ。(要事前予約)

お得な宿泊プラン

(秋田市より送迎付)
JR秋田駅東口発 天寿 宿泊先 秋田駅東口
別紙又はホームページより酒蔵見学・温泉・料理・送迎付きのお得な宿泊プランへお申込み下さい。

海産物販売

海の幸の販売です。煮タコ・沖漬イカ・沼エビ・サキイカ・etc...
金浦町：勘六商店

マグロ解体ショー

「鳥海水産」によるマグロ解体ショー
12時開始 他マグロ、筋子販売等

お問い合わせ 天寿酒造株式会社まで 0184-55-3165

急募 酒蔵開放のボランティアスタッフ募集(〆切日 平成22年1月31日)

イベント NEWS



大井家玄関の酒林新酒が出来ると新しい杉玉に。今年も新酒が出来ました。

「秋田の酒を楽しむ会」
（一般消費者対象）
・時間 午後6時30分～8時30分
・会費 5000円
・定員 600名(定員になり次第締め切らせていただきます)
「美酒王国」秋田の酒は四季折々の美しい自然の中、良質な酒米・優れた技

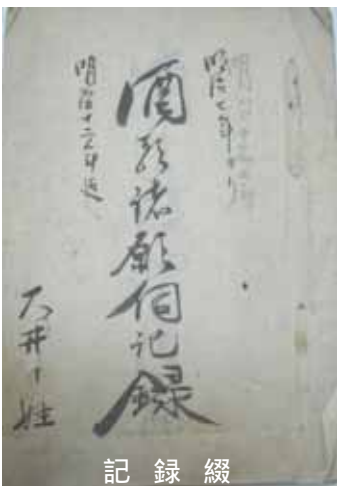
秋田酒造組合イベント
・開催日 2010年3月3日(水)
・場所 ホテルパシフィック東京
「秋田の酒き酒会」
（流通・飲食店・マスコミ対象）
・時間 午後1時30分～5時
・参加無料
・業界関係者を対象とした試飲商談会の為一般の方は入場できません。
・銘醸地秋田県の酒蔵25社が各蔵の自慢の逸品とお燗酒を準備してお待ちしております。
・新開発酵母「秋田酵母 12」「秋田酵母 15」仕込の清酒を「試飲」出来ませ。
・酒質やタイプが一目瞭然の出品酒リストを配布いたします。
・秋田県の特産品販売を同時開催いたします。(きりたんぼ、稲庭うどん、いぶり(ごま)多数)
「秋田の酒を楽しむ会」

天寿の歴史 補遺



補遺 1
取締役相談役
六代目 大井 永吉

「百三十周年を迎える天寿の歴史」として天寿蔵元通信に拙文を連載して早や六年を経た。隔月発行毎号一頁の紙面でもあったが、創業の歴史も既に百三十五年目に入っている。私にしか書けない記事をとの思いで父から聞いた話や、写真、資料を調べながら物語風に書き進めてきたが、ほぼ記憶に残る事柄や材料も尽きてきた感がある。
蔵元通信の編集からは連載を続けて欲しいとの要請もあり、郷土史研究、矢鳥酒造史研究的になって天寿愛飲家の皆さんには興味が薄くなるかもしれないが、先祖が残した古文書を読み解きながら創業の頃に戻して続けてみたい。また、書き残した事柄が出た時は挿入することにした



清酒醸造願
清酒醸造営業仕度奉存候間、御鑑札御下ヶ渡被下度奉候、尤、免許料並二免許税共、御規則之通上納可仕候、以上
明治七年八月十三日
秋田県管下商
第四大区三小区
羽後国由利郡
城内村式百拾貳番屋敷居住
大井永吉
秋田県権令 国司仙吉殿
右之通相違無之、依テ奥印仕候
明治七年八月十五日
戸長 菅原景就

能を持つ蔵人達によりて丁寧に醸されています。
その秋田の銘酒と料理をお楽しみいただく会を開催致します。皆様の「来場をお待ちしております」。
《締め切り2010年2月10日(火)》
申込み先 秋田県酒造協同組合
URL <http://www.osake.or.jp/>
・018-8693-9455
試飲会の1案内
1/6日、12日
【西武百貨店池袋店】
地下1階和洋酒売場にて試飲即売を行います。
この時期おすすめのものばかりたて生酒や限定酒等を含めた様々な旬のお酒を準備してお待ちしております。
売場には、営業の佐藤博輝(鳥海町出身)が立ちます。どうぞお立ち寄りください。
由利本荘ひな街道
昨年人気を博した市観光協会主催の、由利本荘ひな街道「イベント」今年も参加いたします。
（期間3月3日から22日）
江戸時代の矢島・本荘・岩城の藩主や旧家のお雛様など、沢山の古いお雛様が展示されます。
天寿酒造では築百八十余年の本

申請は二代目永吉である。初代永吉は文政十三年(1830年)本家五代目大井直之助光曙時代現在地に分家、麴や濁酒を商っていたが、二代目永吉「幼名正助」嘉永二年(1849年)二十二才で雄勝郡西馬音村佐藤平治家より婿入り、家業を手伝っていたが、明治維新を経て新政府により諸制度が新しく生まれ変わったのを機に清酒製造に踏み切ったとみられる。
清酒醸造の許可は、藩政時代は生駒藩であったが、時の権令(1)宛てに、戸長(2)の奥印付きで申請している。
1 権令「県令に次ぐ県の地方長官。明治4年(1871)、権知事を改称して置かれ、十一年に廃止された」
2 戸長「明治前期、地方行政区画の区や町村の行政事務をつかさどった役人。明治5年(1872)の大区・小区制下では小区の長として置かれ、従来の庄屋・名主などから選ばれた。同十二年町村制施行により廃止。今の町・村長にあたる」

「ご意見感想を寄せください。」
日本酒の「た」もと知り「た」た、天寿の「た」の情報「た」た時「た」ご連絡「た」を「た」お「た」ます。
Eメール info@tenju.co.jp
フリーダイヤル 01200(50)3165



大井家の古今雑

今年も由利本荘ひな街道記念「特別限定酒販売」いたします。見学の壺産「是非お買い求めください」。



ひな街道本醸造 720ml 1000円
雪ごよみ生貯 300ml 500円